

色染美京

テキスタイル雑貨で販路拡大

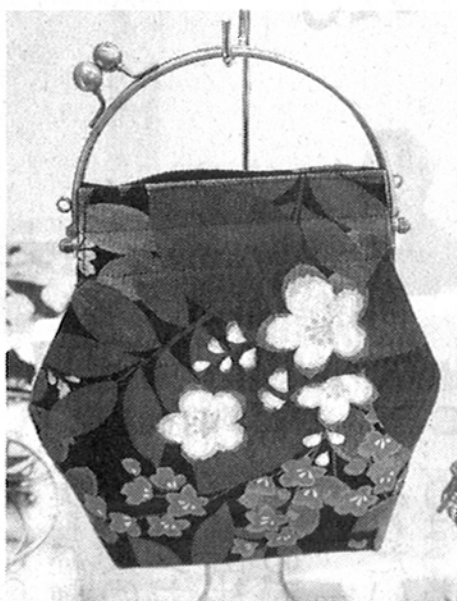
海外バイヤーも評価

プリント加工の京美染色（京都市、大塚晴夫社長）は、テキスタイル雑貨「亥之吉」で海外も視野に販路開拓を強化している。

「東京インターナショナル・ギフト・ショー」9月展で中小企業基盤整備機構（中小機構）の「ニッポンクオリティ」ゾーンに出展、欧米やアジアのバイヤーにも評価された。

商談では、インクジェットで染めたツーウェー口金バッグ

「ベンリーがま口」（6000円）をはじめ、ハンドプリントで口金が外側と内側にある親子



長財布（9000円）やテトラポーチ（1800円）など、手作り感のある雑貨を提案した。特に口金バッグは、19柄30配色の豊富な色柄を揃え、店頭で訪日外国人からも人気で、売れ筋になっている。英国や米国、台湾、香港のバイヤーは、友禅

の図柄やがま口のツグが海外市場にながデザインとして注目し、国内の雑貨関連バイヤーからも、手捺染ならではの柔らかい色使いで評価が高まっている。

ている。

亥之吉は、同社が収蔵する明治、大正期の和柄を生かして9年前にスタートし、インクジェット捺染と手捺染を使い分けたオリジナル柄の国産袋物を中心に販売してきた。直営店のほか百貨店での期間限定店や和雑貨系専門店にも販路を拡大し、同社の売り上げの25%を占める事業に成長している。10月にも首都圏の百貨店で販売し、来年2月には新作を投入する。

服地プリントを本業とする同社は、染色事業も順調で、インクジェットプリンター1台を今月更新し、コニカミノルタの

「ナッセンジャーPRO120」を反応染料のラインに導入した。10月から本格的に稼働する予定で、雑貨の販路開拓とも連動して両事業を底上げする。